

1. 実施日時・場所

二〇一九年 六月五日（水）・六月八日（土）

2. 実施学年・学級

1年C組 第1学年各教室

3. 単元名

比較を通して「死」の生と死のつながりを知る。

本教材

小説「城の崎にて」（志賀直哉）

補助教材

物語『葉っぱのフレディ』（レオ・バスカリア）

（国語総合で実施）

4. 単元について

・教材観

本教材である「城の崎にて」は、主人公の「自分」が、怪我で命を落としかけたことを契機として、「死」に対して深く考えるようになる中で、蜂、鼠、イモリの死の状況を見、自分と重ね合わせ、「生きている」とと死んでしまっていることと、それは両極ではなかった」という独自の死生観に至るものである。全体を通して、「死に対する親しさ」や「死への恐怖のなさ」を語るものであり、学習者の現実的感覚とは距離のあるものだと考えられる。

「葉っぱのフレディ」は、最終的に「死への恐怖のなさ」を主人公のフレディに寄り添うかたちで語り手が記述する点においては「城の崎にて」と同様と言えるが、しかし、「他者との関係の中にある自己」をフレディが意識している点では、「城の崎にて」の「自分」とは決定的に異なるものである。

・学習者観

学習者の課題として、自分が生きていること、また、自分の生を取り巻く状況に対して現実感覚が薄れてきていることがあげられる。実際にそれは、初読の感想においても、多くの生徒が死に対して考えたことがないことを表明していることからわかる。こうした学習者の課題は、「身近な人の死にゆく瞬間に携わる機会がなくなった」という言い方で、長らく教育の世界で議論されてきた事柄である。

・指導観

「学習者観」での学習者の課題をうけ、本単元では、二つの教材を比較することによって、死生観を題材に学習者の認識を深めることを目的として考えている。方法としては、グループワークやペアワークを活用し、互いの意見を交流させ、より深く考えさせる機会を設けることとする。生徒たち自身が、生と死に対して、教材の比較や意見交流を通して、より明確にイメージしやすいように、自身の経験を参照できるように発問を考える等、工夫をしたい。

5. 単元目標

- ・グループ活動により、他者とのコミュニケーションを通して、深い読み取りができるようになる。
- ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
- ・筆者の死生観を文章化するとともに、自分の考えも表現することができる。

6. 評価基準

知識・理解	読む能力	意欲・関心・態度
<ul style="list-style-type: none"> ・意味調べを十分に行い、本文の語句の正確な意味を理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生」と「死」の関係性を読み取れている。 ・補助教材の ・動物の描写や作者の意図を本文の表現から読み取ることができる。 ・作者、動物の描写について、認識できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の心情の変化を読み取ろうとしている。 ・ペア活動、グループ活動において、積極的に話し合い、答えを導きだそうと考えている。

7. 授業展開

時	1	2
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・印象に残った場面や文の表現を取り上げ、理由と共に話し合う。 ・(初読の感想)をプリントに書く。 ・辞書で語句の意味を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一、二、三段落について前全体で音読(ペア)。 ・第一、二、三段落の流れの確認。 <p>◎寂しいという感情について考える。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 	<ul style="list-style-type: none"> ・範読を行う。 ・感想のプリントの配布。 ・初読の感想を書かせる。 ・意味調べのプリントの配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の状態を理解しにくいところを生徒に共感してもらおうように工夫する。 ・作者の行動に注目して、読み取らせる。 ・「寂しい」という感情について考えさせる。 ・死に親しみを持つとはどういう感覚なのかについて考えさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・評価規準 	<ul style="list-style-type: none"> *自分の感じたことを、率直に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> *「寂しい」という感情の本文の意味と、一般的な意味の違いをおさえる。 *「自分」が死に対して親しみを持っていることを捉えられている。

時	・学習内容	・指導上の留意点	・評価規準
3	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の描写について、3つの観点において話し合い、「自分」の死に対する感情の変化を見ていく。 ・グループに分ける <p>◎蜂の死から「死」に対して「自分」はどのような考えをもったのかを考える。</p> <p>◎鼠の死から、「死」に対する作者の考えをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第八段落〜九段落について「両方」とは、何と何か 「死」恐ろしい、努力してもあまり変わらない」など筆者の表現について話し合う。(ペア→四人グループ→全体で交流) <p>◎イモリの死から「自分」はどう生と死を位置づけたのか。(個人→ペア→全体で交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第十段落について不意な死について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの観点から考えさせる。 ・ワークシートの配布。 ・死に「親しみ」を持てる「自分」に対して違和感を与える。 ・「親しみ」というもののイメージを捉えさせる。 ・結局「死」とはどういうものだと筆者は捉えているのかを考えさせる。 ・生徒たちの身近な出来事に結び付ける。 ・最近のニュースでも不意な死があることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> *グループの活動に積極的な態度をとっているか。 *内容を読み取ることができている。 *自分の考えを相手に説明することができている。
4	<p>◎それぞれの動物の描写をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドで、描写について確認する。 ・作者は、死をどう受け止めたのかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回でのグループワークでまとめたものを、スライドで紹介し、全体で共有。 ・ワークシートに描写のまとめを穴埋めさせる。 ・作者の死に対する感じ方について、説明して、板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> *描写について理解している。 *生と死がどのように位置しているのかを捉える事が出来る。

時	・学習内容	・指導上の留意点	・評価規準
5	<ul style="list-style-type: none"> 教材『葉っぱのフレディ』を使う 黙読を行う。 <p>◎気持ちの変化を取り上げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新しい教材について、主人公の気持ちの変化とその理由について、読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生と死の関係性について、応用教材からさらに深く理解しようとしている。
6	<p>◎「城崎にて」とよみ比べる共通の部分、何が違っているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 結果、生と死をどうとらえたのかを文章化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の「城の崎にて」と他の作品と比べて、共通している部分と、違う部分を考えさせる。 感想のプリント 	<ul style="list-style-type: none"> *比較の観点を理解し、二つの作品の特徴を理解することができると。 *自分なりの生と死に関してのまとめを文章として表せる。

8. 本時の展開(五、六時限目)
・本時の目標

◎補助教材を使い、「死」との距離感について、主人公の気持ちの変化を追いながら、読み取っていく。

分	学習内容	教師の支援 □発問	評価規準
5	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認 ・今日の流れの説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜこの教材を用いるのかについて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> *作品を比べることを意識して、授業に取り組む姿勢を見せている。
10.	<ul style="list-style-type: none"> ・応用教材にふれる・黙読をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「葉っぱのフレデイ」の黙読を行わせる。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の整理 ・主人公の気持ちの変化について、線を引く。 ・発問について、考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・⑫段落から最後までに注目させる ・主人公の気持ちが変わるような変化しているか、に注目して、該当する箇所に線を引かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> *自分たちと「死」に対する思いに共通していることがあることを理解する。
5 2	<ul style="list-style-type: none"> ・線を引いたところに対し、なぜそういう気持ちになったのかを、考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> □なぜ、悲しくなったのか □なぜ、死ぬのが怖いと思ったのか □なぜ、安心感を抱いたのか □痛くも、怖くもないのはなぜ？(ダニエルが一番言いたかったことはなにか) 	<ul style="list-style-type: none"> *なぜ、そう思ったのかを読み取ることができ *主人公の気持ちの変化を整理して、理解していく。
5	<p>次回の流れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「城の崎にて」と、「葉っぱのフレデイ」の死に対する考えを、読み比べる。 	

本時の目標(六/六時限)

- ◎補助教材と「城の崎にて」を読み比べ、生と死に対しての共通の考えを違ったところを考えていく。
- ◎「生」と「死」を見つめ直し、自分の考えを改めて文章で表現する。

分	学習内容	教師の支援 □発問	*評価規準
10.	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認する。 ・本時の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回、読みとらせた主人公の気持ちの変化を復習し、「城の崎にて」と共通する部分と、違う部分を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでの話合いに積極的に参加している。 ・フレデイでは死が生に繋がっていることを認識している。
20.	<ul style="list-style-type: none"> ・復習として音読を行う(ペア)。 ・二つに観点から、作品を比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> □永遠の命とはどういうことか □何から何へつながっていったのか。 □他者や周りの関係性はどうか。 □作品を比較する。 □それに対し、「葉っぱのフレデイ」は死に対して、最終的にどう思うかが芽生えたのか。 □逆に「城の崎にて」と「葉っぱのフレデイ」何がちがっているのか。 ・「城の崎にて」の視点人物の考えは何だったかを、おさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの点で、二つの作品が共通し、どの点で比べたのかを理解できている。
20.	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめを板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に、自分が「生と死」を前にしたとき何を思うのかという考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを文章にして、書かせる。 ・自分の考えを文章にして、表現することができる。

⑤・⑥ 「生と死」について(読み比べ)

⑭ 悲しくなった

↓居心地がいいところから、離れていく

||引っ越し

⑮ 死ぬのが怖い

↓経験したことがないから

先の見えない不安

⑯ 安心した

↓自然に起こること・変化の一つ

⑳ 痛くも、こわくもない

↓“いのち”が永遠に続く

◎ 1 死ぬがこわくない!! “いのち”は永遠につづく

↓ (例) 循環・次につながる

↓ (物語) フレディ ↓ 新しい木・葉

「死をむかえたもの」から「生をむかえるもの」へ

↓ 誰かのため 周りのため

☆ 2 ダニエルがフレディに教えてくれたこと

比較



城の崎にて

◎ 1 死に対して「親しみ」を感じた
「死」と「生」そんな差はない

☆ 2 一人で「死」というものを考える

まとめ

共通 || 死に対して恐怖心がない

相違 || 他者とのかわりの有無